

# 日本鍼灸の研究の発展

明治国際医療大学 臨床鍼灸学教室 福田 文彦

日本鍼灸の発展には、「術」とともに「学」の発展が不可欠である。「学」の発展は、日本鍼灸の効果を明確にするのみではなく、「術」を発展させるもの、国民に対する信頼に繋がるものとする。本発表では、1980年に(社)全日本鍼灸学会が発足した当初から約30年、日本鍼灸の「学(研究)」の発展及び患者の視点からの日本鍼灸について報告する。

「学」の発展については、1983年～2010年間に日本から報告された英語(acupuncture or Moxibustion)及び日本語(鍼・灸)の原著論文(学術雑誌)を Pub Med、医学中央雑誌にて検索した。また、1981年、1990年、2000年、2010年に開催された(社)全日本鍼灸学会学術大会の一般演題を検索した。

原著論文では、1983-1990年、1991-2000年、2001-2010年に分類して検討した。基礎研究は英語論文(動物：16編、68編、80編、ヒト：38編、67編、50編)、日本語論文(動物：50編、69編、76編、ヒト：285編、473編、712編)とも増加しており、特にヒトを対象とした基礎研究は増加している。臨床研究は、英語論文(6編、29編、98編)、日本語論文(739編、512編、547編)であり英語論文が増加している。また、英語論文、日本語論文とも Meta-Analysis、Randomized Controlled Trial など論文の質も向上している。しかし、日本以外から投稿(英語)された基礎研究(動物)は238編、297編、863編、臨床研究は339編、784編、1888編と日本以上に数、質とも増加している。

一般演題では、演題数は1981年(57発表)と比較して2010年(277発表)では、5倍に増加している。

近年(2010年)、発表分野では、臨床研究が約半数を占めるようになり、教育研究、古典に関する研究などが新たな分野として報告されている。基礎研究では、体性神経や鎮痛に関する研究が減り、末梢循環や筋に関する研究、臨床研究の内科系疾患、運動器系疾患が中心であったものが、産婦人科疾患、スポーツ疾患、老年疾患、癌などの領域が増加している。臨床研究デザインは、学会の戦略として1症例報告を推奨した結果、1症例報告が増加しているとともに Randomized Controlled Trial などの質の高い発表も増加している。治療方法については、病態に応じた治療の報告が約半数を占めている。

これらのことから、日本の研究は、過去と比較すると発展していると考えられるが、海外の状況と比較すると更なる発展の必要性が求められる。

患者の視点からの日本鍼灸については、東洋療法研修試験財団の支援を受けて2002年から2007年度に実施された一般国民を対象とした全国規模の調査、高野らによる鍼灸院通院患者を対象とした全国規模の調査を参考に検討した。

国民が1年間に鍼灸治療を利用する率は、4.6-6.6%であり、病院・医院(75.6%)、健康食

品(15.6%)、マッサージ・指圧(10.4%)、保健適応漢方(9.4%)に次いでいる。鍼灸治療の対象症状は、腰痛や肩こり、膝痛などの運動器系愁訴が81.6%と大半を占めるが、次いで疲労倦怠(6.9%)、健康増進・リラックス(5.1%)の順であった。腰痛に対する治療選択は、病院の注射や薬(38.2%)、整体・カイロ(35.3%)、病院のリハビリ(24.4%)、鍼灸治療(23.3%)の順であるが、治療に対する満足度では第1位(73.3%)であった。同様に満足度では膝痛は第1位(85.2%)、肩こりは第2位(73.4%)であった。

鍼灸治療に受診している患者のEuro Qolによる健康状態は、比較的高い状態(Tariffスコア：0.780±0.221)であった。鍼灸治療に対する満足度は高く、その要因として治療効果、施術者の技術評価、施術者の信頼度、訴えの理解度、分かりやすさ、施術者の説明度、尋ねやすさ、訴えを聴く姿勢、丁寧さ、診療室の清潔さであった。受診患者が期待している効果は、症状の軽減(70.1%)、病気の治癒(49.3%)、病気の予防(健康維持)(1.6%)の順であった。また、受診患者の約50%は、鍼灸治療と同じ症状で医療機関を受診している。

これらのことから、患者の視点からの日本鍼灸は、比較的健康な人が受診、その目的は健康管理から疾病の治癒まで幅広く、特に運動器系愁訴に対する満足度は高い。満足度の要因では、治療効果とともに鍼灸師との良好な治療関係であり、同一症状に対して西洋医学的治療と鍼灸治療を患者の意思で併用していることから、日本鍼灸は、西洋医学的治療を一部では補完する役割をはたしていることが示唆された。

今後、日本鍼灸は西洋医学的治療との補完を視野にいたれた新たな領域への拡大、その効果を「学」として国内外、特に海外に向けて発信すること。国民へフィードバックすることが必要であると考えます。

#### ■福田 文彦 (ふくだ ふみひこ)



明治国際医療大学 臨床鍼灸学教室 准教授 鍼灸学博士  
大阪大学大学院医学系研究科 生体機能補完医学講座 特認助手

経歴：明治鍼灸大学鍼灸学部卒業(鍼灸学士)、同大学東洋医学教室助手、同臨床鍼灸医学教室講師を経て現職

研究業績：「がん患者に対する鍼灸治療」「ストレス疾患・慢性疲労に対する鍼灸治療」「ストレスに対する鍼灸刺激の影響」について臨床・基礎研究

- Fumihiko Fukuda et al: Effect of Moxibustion on Dopaminergic and Serotonergic Systems of Rat Nucleus Accumbens. *Neurochemical Research*. 30(12): 1607-1613, 2005.
- Kanji Yoshimoto Fumihiko Fukuda et al: Acupuncture Stimulates the Release of Serotonin, but Not Dopamine, in the Rat Nucleus Accumbens. *Tohoku J. Exp. Med.* 208: 321-326, 2006.
- 福田文彦: ストレスマネジメントと鍼灸医学. *ストレス科学*. 23(1): 82-94, 2008.